

会 議 等 開 催 結 果 報 告 書

1. 会議名	令和6年度（2024）第2回出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会		
2. 開催日時	令和6年（2024）11月15日 金曜日 13：30～15：00		
3. 開催場所	出雲市役所 6階委員会室		
4. 出席者	<委員> 浅野紳委員、芦矢京子委員、安食和彦委員、飯塚由美委員、川谷吉正委員、木次勝義委員、齋藤茂子委員、高橋陽委員、中間敦司委員、藤江多恵子委員、古川祐次委員 吉田太郎委員 （50音順） 欠席：天野和子委員、倉橋輝夫委員、原洋子委員 <事務局> 出雲市：福祉推進課長、福祉推進課主査 ほか 出雲市社会福祉協議会：会長、事務局長 ほか		
5. 議題（会議等において検討された事項等）			
開会 1 委員長あいさつ 2 議事 （1）令和6年度市民アンケート調査結果（中間報告）について ・令和6年度アンケート調査結果 ・令和6年度アンケート調査（自由意見集約） （2）第4次出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗管理について ・第4次計画の進捗管理について ・第4次計画の取組実績 3 その他 閉会			
6. 担当部署	出雲市健康福祉部福祉推進課 出雲市社会福祉協議会総務課企画係	連絡先	0853－21－6694 0853－23－3781
7. 会議要旨	以下のとおり		

1. 開会	本委員会を公開で開催、傍聴人 無し
2. 委員長あいさつ	天候不順により体調を崩しやすくなっていますので、皆さんお気をつけください。本日は、令和6年度市民アンケートの調査結果を検証してまいりますので、委員の皆さまからのご意見をお願いします。また、本日話題になると思いますが、私自身昨年から自治協会の役員をしております、自治協会への加入のことなど課題が多いことを実感しております。皆さまからのご意見を参考にできればと思います。
3. 議事	
委員長	それでは、次第に従って議事に入ります。議事1「令和6年度アンケート調査結果」について（資料1－1）事務局から説明をお願いします。
事務局	<u>令和6年度アンケート調査結果について（資料1－1）について説明</u>
委員長	アンケートについて事前に質問やご意見をとりまとめていただいております。事務局から説明をお願いします。
事務局	<u>市民アンケート結果に対する委員意見等一覧について説明</u>
委員長	まず1つ目のご意見をうかがいたいと思います。特に実情を把握しておられるA委員さんいかがでしょうか。
A委員	新聞等でご承知だと思いますが、11月6日の山陰中央新報に自治会の加入率について掲載がありました。実際の自治会加入率は県内8市で軒並み下がっています。特に出雲市が55.6%で最も低くなっています。松江市の57.4%より低い値です。アンケートとは比較にならない状況になっていると思います。10年前と比較すると、3,964世帯が自治会をやめておられます。 出雲市の地区は大きい順に並べて5番目が川跡の4,329世帯であり、これに次いで多い数です。これは一つの地区がなくなってしまったようなものです。役員業務の負担が大きいためにやめられることが多いと思います。 現状で分かっているのは、地元の灘分地区ですが1,100世帯あり、10年前に加入率が80%だったのが今年度67%でした。他と比べるとまだ高いですが、低くなってきています。どうしてか考えてみると、灘分地区は750戸34町内で、平均22～23軒で1町内となっています。中には、町内会を10軒で形成しているところが7～8町内あります。こちらから町内会に対し、8つの役員をお願いしているため、10軒のうち8人を出してほしいとお願いしています。となるとほとんどの方が役員で、中には何役も兼務している方もいらっしゃるのが現状です。これが加入率の低下を引き起こしている要因ではないかと思います。 町内会に対して厳しいことは言いたくありませんが、参画していただかなければ良い地域づくりはできません。近頃取りざたされている災害時の助け合い

	についても、アンケートにもありましたが、防災や見守りには声掛けが一番大事とあっても、組織がしっかりしていないとできません。市から避難プランを作成のお願いが来ていて、町内会という形があれば簡単ですが、個人の集まりとなると避難サポーターを見つけることも現実には難しいと思います。 また、町内会長をはじめ民生委員や消防団員など人を出してもらわないと地域が成り立ちません。夏祭りや運動会、文化祭などにはたくさんの方の協力が必要になります。そうした声掛けは自治協会にお願いせざるを得ないので、そこでも加入しておられる方々に負担をかけてしまい、悪循環を招いています。 当地域もこれではいけないと組織改善委員会を立ち上げて、快く加入してもらう方法や現状の加入世帯の負担を軽くする方法について検討しています。幾分かの改善はできますが、やはり大きな問題になると市全体として取り組んでいただかなければ根本的な解決には至らないと思っています。
委員長	ありがとうございました。他の地区も同様の状況でしょうか。ここだけで考えることはありませんが、地域福祉活動にとって大切な組織になりますので真剣に考えていかなければならないと思います。塩冶地区では新築やアパートが増えています、町内会には加入されない状況です。他も同様でしょうか。町内会について行政の立場からはいかがでしょうか。
B 委員	市でも検討中ですが、ここ数年で個人的に思うところは、もともと自治会は隣近所が集まって自然発生的にできたものだと思います。2000 年までは納税組合という組織がありましたが、個人情報管理や集金の負担感もあり、なくなりました。役員等の負担軽減について検討しているところですが、自治会にも働き方改革が必要になっていると感じています。最低限の自治会の役で終わればいいですが、上部団体もあり、そうした負担感もあると思います。地元は何をお願いして何をやめていくのかを検討しているところです。 また、防災についてですが、昔から災害時は行政にお願いすることになっていましたが、10 年前から自助・共助・公助となっています。災害発生時は自分のことは自分で守るという国の流れになっています。共助が2 番目で公助が3 番目です。昔は1 番目が公助で行政が全てやるものとなっていました、それができず、変わってきました。先ほど話にあった、避難プラン作成を依頼していますが、そのなかで単純な声掛けをお願いさせていただいています。中には声掛けすら難しい地域もあると思いますので、どうしていくのがいいかと考えているところです。高齢者の方については、人生100 年時代で独居の方も増えていますが、人との交流が心身を守ると言われています。これがないとADL や認知機能が低下していきます。行政では高齢者が集まる場づくりをすすめているところです。
委員長	防災もですが、よくニュースに取り上げられている防犯も同じではないかと思っています。防犯については、自分で考えていくしかないのでしょうか？

B 委員	市の防災安全部は警察との関わりがあります。出雲市の人は詐欺に巻き込まれやすい傾向があります。エビデンスがあるわけではありませんが、出雲の人の気質も関係していると言われていました。行政としては啓発しかできない状況ですが、警察や各協会と連携して対応していく必要があると思います。防災も同じですが、お互いに声掛けをして、一度立ち止まって相談していただくことが大切だと思います。
委員長	続いて2つ目のご意見について皆さんからどうぞ。
事務局	事務局から失礼いたします。前提が複数選択であっても、「特にない」を選ぶと一つしか選択がないことになります。しかし、データの中身を見ると、複数回答の設問で2つを選択して3つ目に「特にない」を選択されるケースもあるので、事務局としては今の形で集計させていただければと思います。
C 委員	この意見を書いた者です。アンケートを何年もやってきて今更感もありますが、集計を見ていった時に「特にない」が3つ目とか4つ目に来ていると、この人たちは、なぜ選んでおられるのかなと思いました。普通、「特にない」を選んだら、他の選択肢を選ばないですね。でも、そういったケースがあると言われたのでしかたがないと思いますが。例えば、「ある」と答えた人は何%で、そのうえで一覧を見ていくと少し見方が違うかなと思います。仮に想定した話で、「特にない」とした人がそれ以外書いてないとすれば、例えば「ある」とした人が8割で、そのうち、20～30という数になるのかなと思いました。実際の総数がNで記載されていますが、「ある」と回答した人が100人で「ない」とした人が50人です、その100人の内の何%がこれですよという形はどうかと思いました。そういう見方もできるかなと思います。ただそれが統計としてどうかは別の話ですが。
D 委員	「特にない」という選択をして、他に選択をするという人はなぜだろうかと思います。「特にない」も分析には必要な項目ではあると考えます。その前に「ある」か「ない」に最初に分けて取ってみる方法もあると思います。集計の時に分母が違ってくるのは好ましくないのです。それから、「特にない」を選択した人が他に○をつけたのはなぜかと考える必要があると思います。
C 委員	私も「特にない」を回答した人は他を選択されてないと思ったので、分析の中で「特にない」がこれだけおられて、そのうえで他の項目の%を示すといいのかなと思います。ただ、他にも○をつけておられると分かりにくくはなります。
D 委員	100人の中で分けると割合が違います。分母が100なのか80なのかで変わってきます。全体の100の中でみて分析した方が的確になると思います。

C 委員	ただ、前提として「特にない」の人が他に○をつけていなければそれでいいと思いますが、事実として「特にない」を選択して他の回答も選んでいる方がいるのでこのようにずらっと並べているのかなと思います。
事務局	想像ですが、「3つ以内」と回答を求めた設問で、「2つはあるけど3つ目は特にない」と考えた方がいらっしゃるのかもしれませんが。事務局としては、過去このように集計した推移があるので、これまでとの比較のために同様に集計しました。これについては今後検討したいと思います。
C 委員	私としては、1番が何%とありますがアンケートに答えられた人のうち、どれくらいだろうと考えた時に「特にない」が入ってくると実態に則しているだろうかとよぎったところです。
委員長	集計については今後の検討事項でよろしいでしょうか。
事務局	次回以降の集計については検討課題として事前にお示しさせていただければと思います。
委員長	では、3つ目のご意見に移りたいと思います。これは私からの意見です。資料1-1の4ページの日常生活の幸福度を充実させるために、時々自分自身を点検してもらいたいと思っています。健康面などQOLに関する項目がありますが、それは著作権があって簡単には使えませんが、満足度や幸福度について他の方法で点検して、地域づくりに貢献してくださるといいなと思ったところです。例えば、健康面だとストレスチェックやフレイルチェックなどがあり、これは何のためにするかという予防のためです。幸福度についても自己点検する機会があるといいと思っています。 皆さんから何かご意見ありますでしょうか。 <意見なし> では、続いて議事2に入ります。「第4次出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗管理について」（資料2-1）事務局から説明をお願いします。
事務局	<u>第4次出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗管理について（資料2-1）説明</u> <u>第4次出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組実績（資料2-2）説明</u>
委員長	ご質問、ご意見いかがでしょうか。

E 委員	資料２－２は、あくまで各課の自己評価と思いますが、大事なのは、その結果アンケートでどんな変化が見られたのかつなげて考えないと、それぞれだけではあまり意味がないと思います。その辺りをつなぐものが文面で出てくるかと期待したのですが。いただいた一覧表だと、あまりいっぱいあって理解しにくいので。 望ましいのは、令和５年に新しい計画で取り組まれ、その結果がアンケートで出てくるという流れになると思います。評価とアンケート結果をつなげて考える必要があると思います。担当課が「Ａ」と評価しても、その効果が本当にあったのか検証する必要があると思います。今後まとめた文章が出てくるのでしょうか。それとも、このアンケートで終わってしまうのでしょうか。
委員長	事務局、いかがでしょうか。
事務局	現時点では中間ということで、物によってはクロス集計などをしないといけないと思います。アンケートの中の項目と、事業がどうつながっているのか分析させてください。それについて直接分かるデータが出れば、各担当課に示しし、関連性の評価をしていきたいと思います。その結果については、第３回の委員会の際にお示しいたします。
E 委員	全部をすると時間がかかるので、特に顕著に変化があったものでもいいのではないかと思います。例えば、自治振興課は町内加入の促進について「Ｂ」という評価をされています。しかし、加入率は下がっている。支援策として何が足りないのか検証が必要だと思います。
委員長	今後の検討課題として分析を深めていただければと思います。ありがとうございました。 続きまして、次第「３．その他」に入ります。この機会に情報共有されたいことなどがございましたら、お願いいたします。 <意見なし>
委員長	意見がないようですので、事務局にお返しいたします。
事務局	本日の議題は以上となります。 以上で本日の委員会をこれで終了いたします。ありがとうございました。
閉会	